

# 春静寂なる

(昭和二十三年逍遙歌)

中島通雄君 作歌  
佐々木淳君 作曲

## 一

春静寂なる石狩の  
曠野に漂泊ひて人を哭き  
秋蕭々の寮窓に倚り  
夕雲遠く友を呼ぶ  
北斗の啓光さしそえど  
哀れ悲しき旅ならむ

## 二

北溟ゆく雁は名のみにして  
暮る秋風に啼く虫か  
榆梢に喘ぐ郭公か  
はた又魂の語らひか  
現の波濤は荒くとも  
知るや無象の天の外

## 三

十勝の峰に断雲怒り  
白銀吼ゆる朝風も  
奇しき調の琴と聴き  
燃ゆる理想に悶えつつ  
ただひたぶるに辿りゆく  
長き生命の斗争に

## 四

自然の芸術変らねど  
何処に祓所を求めゆかむ  
ああ孤独の寂寥を  
味はひ知れる人ならで  
誰に語らん入相の  
鐘鳴りひびく榆陵の上

## 五

花咲き散りて春秋の  
遷りてここに三星霜  
逝にし遊宴の宵の夢  
たぎる情熱を篝火に  
残恨の杯を汲み交はし  
高唱はなんかな自治の歌

## 六

今逍遙の原野に萌ゆる  
森の翠の色深く  
行手遙けき豊平の  
清流に泛ぶ綺花の影  
哀れ愛しき絢夢なれど  
我が生命こそ真なれ